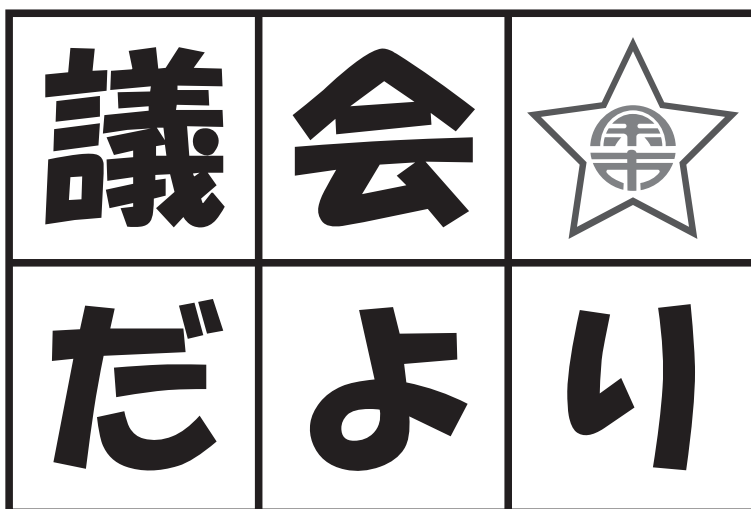


よいち町

2023.3
No.206



2月3日、寒さが厳しい中、保育所では元気いっぱい豆まきが行われました。

第4回定例会の審議結果

○主な審議結果 P2~4、14

- 令和3年度各会計の決算を認定
- 国民健康保険税条例の一部改正案を特別委員会に付託
- 重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例及び乳幼児等医療費の助成に関する条例の一部改正案を民生環境常任委員会に付託
- 帯状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める要望意見書など2件の意見書を可決
- 行政報告

○常任委員会の動き P5~6

○議会報告会を開催しました P7~9

○一般質問 P10~13

- 8議員が町政全般について12項目を質問

審 議 内 容

令和4年第4回定例会

令和4年12月13日～15日に開催の第4回定例会での審議結果についてお知らせいたします。



各会計決算特別委員会

決 算 認 定

- 令和3年度一般会計決算認定について
 - 令和3年度介護保険特別会計決算認定について
 - 令和3年度国民健康保険特別会計決算認定について
 - 令和3年度後期高齢者医療特別会計決算認定について
 - 令和3年度公共下水道特別会計決算認定について
 - 第3回臨時会に提出された令和3年度の一般会計ほか4会計の決算は、令和3年度余市町各会計決算特別委員会（岸本好且委員長・寺田進副委員長）を設置、付託し、審査していましたが、第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。
 - 令和3年度水道事業会計決算認定について
- 第3回定例会に提出された令和3年度水道事業会計の決算は、令和3年度余市町水道事業会計決算特別委員会（彫谷吉英委員長・山本正行副委員長）を設置、付託し、審査していましたが、第4回定例会で委員長報告のとおり認定しました。

令和3年度各会計決算

会 計 別	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
一 般 会 計	122億3,365万円	117億3,600万円	4億9,765万円
介護保険特別会計	24億8,121万円	24億2,291万円	5,830万円
国民健康保険特別会計	26億2,205万円	26億1,206万円	999万円
後期高齢者医療特別会計	3億3,764万円	3億3,727万円	37万円
公共下水道特別会計	11億6,627万円	11億2,495万円	4,132万円

令和3年度水道事業会計決算

水 道 事 業 会 計		
収益的・資本的	収入決算額	支出決算額
収益的収入及び支出	7億1,221万円	6億5,574万円
資本的収入及び支出	3億3,838万円	6億1,149万円



水道事業会計決算特別委員会

補正 予算

一般会計

□ 令和4年度一般会計補正予算
(第5号)
総額6億4589万円を追加

◆主な補正内容

- 寄附に伴う各種基金積立金
1億9124万円
- ふるさと納税取扱業務委託料等
2億9800万円
- 子どもの体験の場合創出促進事業委託料
3500万円
- 福祉灯油助成金
1330万円
- 更生医療給付助成費
1218万円
- 障害福祉サービス費等給付費
6115万円
- 余市協会病院救急医療体制維持補助金
1776万円
- 余市町中小企業振興事業補助金
865万円

特別会計

□ 令和4年度公共下水道別会計
補正予算(第1号)
総額1988万円を追加

◆主な補正内容

・基金への積立、長期償還利子の減額によるもの

□ 令和4年度水道事業会計補正
予算(第3号)
・収益的支出で728万円を追加

◆主な補正内容

・電気料金の高騰による動力費の補正によるもの

条例案

□ 余市町職員給与条例及び余市町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案

□ 余市町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案

□ 余市町特別職の職員の給与及び旅費並びにその支給方法に関する条例及び余市町教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案

□ 余市町特別職の職員の給与及び旅費並びにその支給方法に関する条例及び余市町教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案

□ 余市町特別職の職員の給与及び旅費並びにその支給方法に関する条例及び余市町教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案

□ 余市町情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例案
行政手続のオンライン化に向け制定されました。

□ 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案
地方公務員法の改正により、関係条例の所要の改正を行いました。

□ 余市町職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例案
地方公務員法の改正により、職員の定年退職年齢の段階的な引上げのため、改正を行いました。

□ 職員の高齢者部分休業に関する条例案
職員の定年退職年齢の引上げに併せた部分休業に関する条例について制定されました。

□ 余市町手数料徴収条例の一部を改正する条例案
建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令の一部改正に伴い、低炭素建築物新築等計画の認定及び建築物エネルギー消費性能向上計画の認定に関わる改正を行いました。

□ 余市町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例及び余市町乳幼児等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例案
第4回定例会に提出された、余市町重度心身障害者及びひとり親家庭等の医療費の助成に関する条例及び余市町乳幼児等医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例案、所管の民生環境常任委員会(中谷栄利委員長・茅根英昭副委員長)に付託し、審査を行っています。

□ 余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案
第4回定例会に提出された、余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案は、余市町国民健康保険税条例審査特別委員会(中谷栄利委員長・茅根英昭副委員長)を設置、付託し、審査を行っています。

□ 余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案
第4回定例会に提出された、余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案は、余市町国民健康保険税条例審査特別委員会(中谷栄利委員長・茅根英昭副委員長)を設置、付託し、審査を行っています。



国民健康保険税条例審査特別委員会

審 議 内 容

議案に対する各議員の賛否一覧

地方自治法第96条で定める議決事件について、各議員の賛否結果が分かれた案件（欠席・退席含む）を掲載しています。

第4回定例会 議案に対する各議員の賛否一覧表

○：賛成 ×：反対 欠：欠席 退：退席

件 名	審議結果	明 政 会						日本共産党議員団			よいち未来			公明党		無所属		
		藤野博三	内海博一	庄 巖龍	彫谷吉英	茅根英昭	近藤徹哉	伊藤正明	安久莊一郎	大物 翔	中谷栄利	山本正行	土屋美奈子	岸本好且	寺田 進	白川栄美子	野呂栄二	吉田 豊
令和3年度余市町水道事業会計決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度余市町一般会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度余市町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度余市町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度余市町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
令和3年度余市町公共下水道特別会計歳入歳出決算認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○

※中井寿夫議長は採決には加わりません。

要望意見書の審議結果

第4回定例会で提出のあった意見案についてお知らせします。

件 名	議案の提出者	審議結果	意見書の提出先
带状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	厚生労働大臣
知的障がいの制度に関する要望意見書	議会運営委員会委員	原案可決	厚生労働大臣
安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	
女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	
物価高騰から暮らしと経済を立て直す施策を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	
インボイス制度導入の延期(中止)を求める要望意見書	中谷栄利議員ほか1人	否 決	

※全会派の同意が得られた要望意見書は議会運営委員会の委員が提出者となっています。

常任委員会の動き

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

総務

文教

町立学校適正規模・適正配置基本計画の策定について調査しました

【第13回】

(令和4年11月17日開催)

○町立学校適正規模・適正配置基本計画の策定について(所管事務)

今年度策定予定の町立学校適正規模・適正配置基本計画に関わり、学校規模の適正化や将来を見据えた学校配置の在り方を審議する、余市町立学校適正配置等検討委員会の会議概要及び保護者アンケートの結果について説明を受け、審議しました。

○町税の納付方法別収納状況等について(所管事務)

金融機関等や口座振替による納付のほか、納税環境の整備を図るために行っているクレジットカード納付やコンビニ納付の方法別収納状況について、各税目の件数、利用率、納付額、令和3年度実績と令和2年度実績の比較の説明を受け、審議しました。

○個人情報保護法の改正について(報告案件)

社会全体のデジタル化に対応した個人情報の保護とデータ流通の両立並びに国際的調和が要請される中、行政機関、独立行政法人等、民間事業者及び地方公共団体において個別の法律で運用される個人情報保護制度の法体系を一元化する個人情報の保護に関する法律の改正の概要、さらに改正に伴う条例の改正について報告を受けました。

○余市町情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例について(報告案件)

行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図り、もって町民生活の向上に寄与するため、情報通信技術を利用する方法に必要な事項を定める条例の制定について報告を受けました。

○公共施設の民間提案制度の活用について(報告案件)

公共施設の在り方の検討については本町の公共施設のうち、利用者が少ない、または維持管理費が比較的高額な施設について、民間のノウハウを活用することで地域住民や地域経済への還元が期待されることから民間

参入を検討することが示されており、このたび余市町民間提案制度を活用し、公共施設の活用について民間の提案を募り、円山公園ふれあい交流施設、農村活性化センターの2施設の提案について審査の結果採用とした旨の報告を受けました。

【第14回】

(令和5年1月24日開催)

○町立学校適正規模・適正配置基本計画の策定について(所管事務)

余市町立学校適正配置等検討委員会で審議がなされた当該計画の素案が提出され、推計では、おおむね10年以内に全ての小中学校で一学年一学級化が見込まれることや、保護者等のアンケート結果や検討委員会での意見を参考として、計画策定後の検討の進め方について説明を受け、審議しました。

○余市水産博物館条例の一部改正について(報告案件)

博物館の適正な運営を確保するため、博物館資料の電磁的記録の作成及び公開と人材の養成・研修を追加する博物館法の改正に伴う条例の改正について報告を受けました。

民生

環境

町営斎場建替事業について調査しました

【第12回】

(令和4年10月20日開催)

○町営斎場建替事業について(所管事務)

第3回適地検討委員会の開催結果について、現計画地(梅川町)と都市公園予定地の2か所に絞り、意見交換するとの説明を受け審議し、また、黒川町第八区会が都市公園予定地を斎場候補地とする案に反対し、理解と納得の得られる建て替え場所を要請する署名1661筆を町に提出された旨、報告を受けました。

○社会福祉施設等物価高騰対策事業について(報告案件)

町内に有する福祉・介護・保育等の関係事業所の安定的なサービスを提供できる体制の確保と事業の継続支援のため給付金を助成し、1事業所当たり3万円支給する旨の報告を受けました。

委員会報告

○電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付事業について
(報告案件)

電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、低所得世帯(住民税非課税世帯等)に緊急支援給付金を支給するもので、約3700世帯に対し、1世帯当たり5万円を支給する旨、報告を受けました。

【第13回】
(令和4年11月15日開催)

○町営斎場建替事業について
(所管事務)

第4回適地検討委員会の開催結果について、継続して議論が必要との意見を踏まえ、次回の開催を町に申入れする旨の説明を受け、審議しました。

○新型コロナウイルス感染症対策について
(所管事務)

10月4日からの1か月の感染者数は280名であり、感染症対策について資料に基づき説明を受け、審議しました。

○余市協会病院の救急医療体制について
(報告案件)

北後志5か町村が本年度も協会病院へ財政支援することに合意した旨、報告を受けました。

○健康増進及び子育て支援等に関する連携協定について
(報告案件)

明治安田生命保険相互会社との協定により、健康増進等の向上を図るとの報告を受けました。

○乳幼児等医療費の助成について
(報告案件)

医療費の助成制度対象者を18歳まで拡大し、実質無償化を図るべく検討を進めている旨、報告を受けました。

【第14回】
(令和4年12月22日開催)

○町営斎場建替事業について
(所管事務)

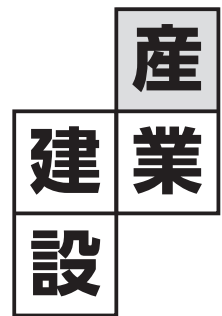
第5回適地検討委員会の開催結果について、報告書を町に提出した旨説明を受け、また、町長欠席の中、町広報1月号に町長の考えを述べたコラムを掲載することに説明があり、町長自ら説明するよう求めました。

【第15回】

(令和4年12月27日開催)

○町営斎場建替事業について
(所管事務)

町広報に掲載するコラムについて、町長の見解を受けました。



道の駅再編整備について調査を行いました

【第11回】
(令和4年10月24日開催)

○令和4年度余市町除雪計画について
(所管事務)

余市町冬を快適に過ごす条例の趣旨に基づく令和4年度除雪計画について説明を受け、除排雪やパトロールの体制、流融雪溝の維持管理や空き店舗の対応等について審議しました。

○水道料金(基本料金)の減免について
(報告案件)

コロナ禍における物価高騰等に直面する生活困窮者や事業所等の支援として、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、官公庁を除く全ての利用者の水道料金の基本料金を2か月間減免することで、町民や事業者の負担軽減を図る旨の報告を受けました。

○令和3年度漁業生産高について
(報告案件)

水揚げ量としては前年度より減少したが、サケの豊漁に伴い水揚げ額は増額となった旨の報告を受けました。

【第12回】
(令和4年11月16日開催)

○道の駅再編整備について
(所管事務)

道の駅再編整備における民間提案募集の進捗状況について、事業者への説明会には7社の参加があり、今後は12月21日まで企画提案書を受け付け、令和5年1月中旬にプレゼンテーション・ヒアリングの実施、同月下旬に特定事業者の決定及び通知、令和4年度から5年度に基本協定等の締結、詳細協議の開始、令和6年度に実施計画業務、建設業務等の各契約締結、令和7年度には維持管理、運営に関する業務契約締結、令和8年10月に供用開始予定との旨の説明を受け、審議しました。

○余市町水道原水の水質検査結果について
(所管事務)

令和3年度の水道原水の水質検査結果について説明を受け、水道法に基づく検査項目のうち
○公共施設の民間提案制度の活用について
(報告案件)
利用者が少ない、または維持管理費が比較的高額な公共施設は民間ノウハウを活用することで地域住民や地域経済への還元が期待されることから、民間提案制度を活用し、円山公園一帯を含む円山公園ふれあい交流施設、水産加工研修センター、山田・登市民農園を含む農村活性化センターの3施設について民間提案を公募した結果、円山公園ふれあい交流施設及び農村活性化センターの2施設を対象として、これまで本町が行ってきた管理業務に加え、提案事業者の実績・ノウハウを活用した新たな魅力づくりとして子どもの体験の場や賑わいを創出するなどとした提案があり、採用した旨の報告を受けました。

議 会 報 告 会 を 開 催 し ま し た

議会報告会は第1回を令和元年に開催して以来、コロナ禍の影響により開催を見送っておりましたが、このたび、3年ぶりに開催いたしました。

報告会のテーマは「議会運営委員会と各常任委員会の取組について」として、各委員長から内容について報告後、参加された皆様と意見交換を行いました。今号では、その概要を抜粋し、お知らせします。



第2回議会報告会は、11月19日、中央公民館において開催しました。

今回は、開催テーマであります「議会運営委員会・各常任委員会の取組について」議会運営委員会、各常任委員会の委員長から今期議会での取組内容について、それぞれ報告がなされ、その後、報告会、議会、町政について参加された皆様方と意見交換がなされました。

【意見交換会での「意見等」】

○議会報告に関するご意見等

問 参加者が少ない。意見を言える場が少ないので考えてほしい。

答 ご意見を受け止め、進めてまいります。

問 各委員会の課題点、問題点を資料として示してほしい。

答 住民の皆さんと意見交換をしていくことが課題でもあり、ご意見を生かし進めてまいります。

問 町民の関心のありそうな中身について、経緯だとか血の通った報告をしてほしい。

答 頂いた意見を政策に結びつけたいと思っており、期待に応えられるよう進めてまいります。

○議会に関するご意見等

問 議員定数が2名削減され、今期議会はどのように改革されるのか。

答 削減しても議会の機能が低下しないようにしなければならず、町民の皆さんとの懇談を数多くし、改革を進めたいと考えます。

問 議会、議員に対する町民の期待に応えることについて。

答 期待されない議会ではあってはならないと考えており、住民のニーズをどう救い上げるかが課題であり、期待に応えていきたいと考えます。

問 子どもたちに議場を開放しながら、勉強の機会を与えてほしい。

答 過去には町内の組織による子ども議会が開催されており、今後検討していきます。

問 議会改革に町民が入り込んで行っている自治体もあるので、参考にすべき。

答 今後検討してまいります。

問 町政について、町民の代表として議会、議員が説明するべきで、町民に情報を伝えることが一番大事。

答 議会や議員の動きが見えないというご意見もあり、取組を進めます。

議 会 報 告 会



○区会の拠点として使用する施設にテーブル、パイプ椅子は設置できないか。

○町営斎場の建て替えの問題は十分検討していただきたい。

○過去には福祉バスが運行されており、また、他町村では町営の運行バスがあるが、町でバスを運営する発想はあるか。

○文化財の保護、保存について。

※ なお、町政に関するご意見等も頂いておりますので、その内容について一部抜粋し、お知らせいたします。

ア ン ケ ー ト

議会報告会に参加された皆様にご協力いただき、アンケート調査を実施したことから、その結果についてお知らせいたします。

○アンケート調査の結果

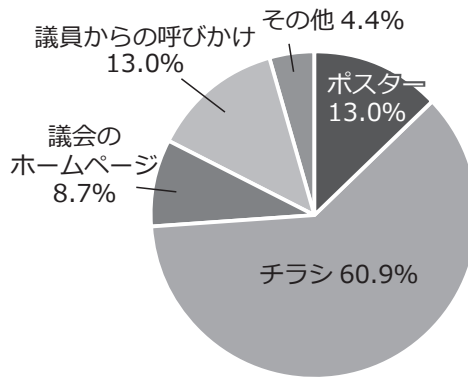
参加者数	回答者数	回収率
27人	20人	74.1%

○参加者の男女別内訳

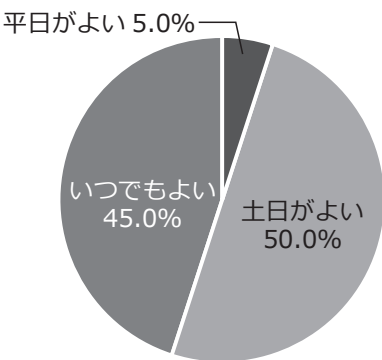
男	女	合計
20人	7人	27人
74.1%	25.9%	

○参加者の年齢構成

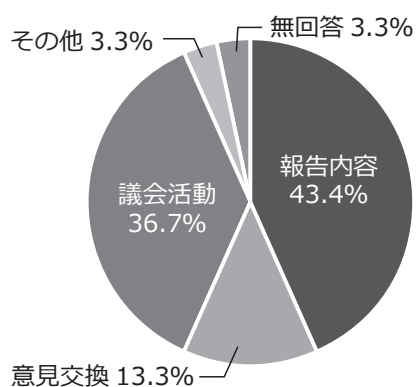
20代以下	—
30代	—
40代	1人
50代	5人
60代	4人
70歳以上	17人



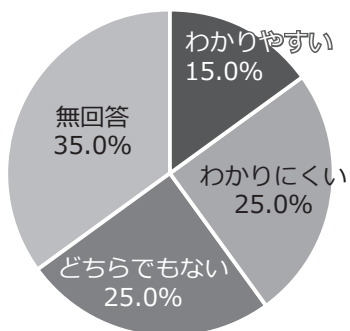
Q.「議会報告会」は、どのように知りましたか？
〔複数回答可〕



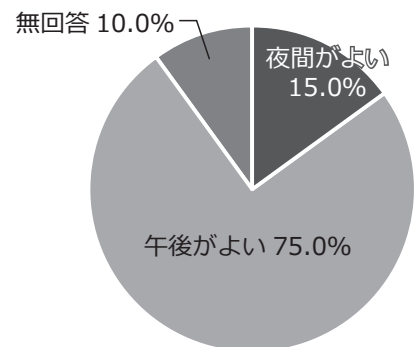
(1) 開催日について
Q.「本日の報告会はいかがでしたか？」



Q.「議会報告会」に参加を決めた理由は？
〔複数回答可〕

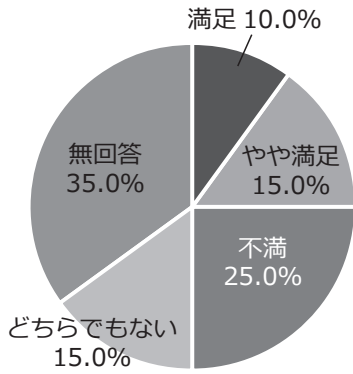


(3) 報告内容について

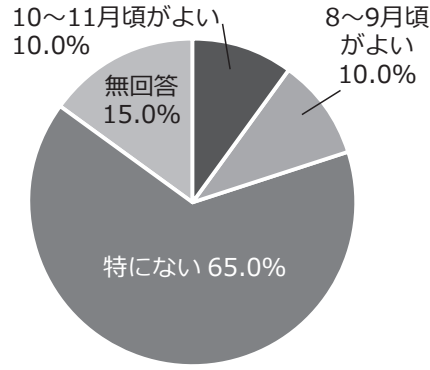


(2) 開催時間について

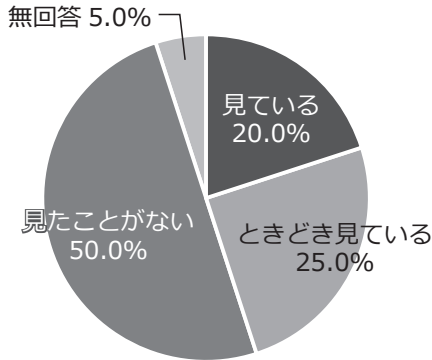
議会報告会



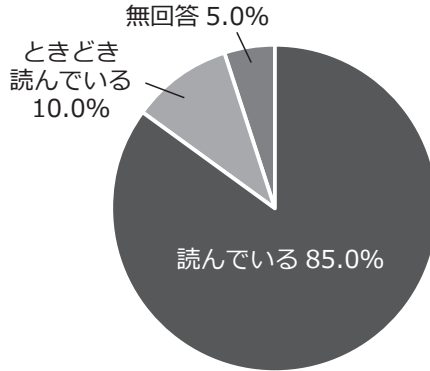
(5) 報告会全般について



(4) 開催時期について



(2) 議会のホームページ



(1) 議会だより

Q.「町議会からの情報発信、情報公開」についてお聞かせください。

Q.今後、議会報告会で取り上げたいテーマはありますか？

・組織説明のような印象がした。
・理事者とは別な立場で要望やその現状を聴く会としての位置づけを打ち出してはいかか。
・報告は結果であり、町の将来

【議会報告に関する事項】

Q.町議会への意見、要望

・町民の意見を述べる場がほしい。
・各委員会の現状での課題について。

・議会だよりで報告済みのものでも幾つかを口頭で伝えるのはどうか。
・余市町の一村一品等について。
・6次産業化について。
・町づくりについて。
・町内の各会館の改修等について。
・定例会終了ごとに開催してほしい。各議員の発表がほしい。
・言葉だけでなく視覚でも。
・所管事項の報告ではなく、具体的な取組、課題に対する対応等の進捗状況について。
・各委員会の現状での課題について。

の活性化の場としてほしい。
・委員会報告はほとんど分らない。
・コロナ禍の状況で人数を集めるのは考えなければいけない。
・日程が決まり、町民の参加を求めているが町の議員の欠席は理解できない。
・音響環境などを整備すべき。
・委員会の役割、開催回数、審議件数、委員の出席状況について資料を出してほしい。
・懇談会の開催回数を多く、具体性を持ってほしい。
・日常の議員活動で意見集約などではいけないか。
・全体的な報告と個々の報告も共にしていいのではないか。

【議会に関する事項】

・定例会での議員からの質問が少ないのではないか。
・町民の要望を取り上げて議会に反映することが重要な仕事。
・議会と町民の間の溝があるとしたら、仕事が十分なされていないことが原因ではないか。
・定数削減で、どの委員会の定数が減るのか。課題解決に問題はないのか。
・もつと地域に関することを発信してほしい。

【町政に関する事項】

・町からのアンケートが実態と合っていない。目的が分からないものがある。
・意見より要望・不満が多い状況を考えて、今後の議会の在り方を考えてほしい。
・ますますの改革に取り組んでほしい。
・町民を交えた「議会改革協議会」をつくるべき。
・町民の目線に立った、町民に寄り添った議員活動、議会活動をお願いします。
・町民の声の少なさに議員一人一人が危機意識を持って取り組むべき。
・所管事項への取組について、国、道、町の法令にどのように合致していくのか等を各議員が深く勉強していく必要があるのではないか。
・意見より要望・不満が多い状況を考えて、今後の議会の在り方を考えてほしい。

※紙面の都合上、いただいたご意見を要約し掲載しています。また、議会のホームページでもご覧いただけます。

一般質問

第4回定例会での一般質問は、8人の議員から12件の町政全般に対する質問がありました。

一般質問は、一問一答方式により、質問、答弁を合わせ制限時間45分の範囲内で行い、議会だよりに掲載している内容の要約は質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

大物 翔議員
(日本共産党議員団)

町内の除排雪について

質問 大物議員 余市町冬を快適に過ごす条例は、高齢化の進展などもあり現状にそぐわない事例が増えていると考えるが、条例を現存させる意義及び見直しへの見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 町民皆様のご理解とご協力がなければ除排雪を円滑に進めることができない状況は、条例施行時と何ら変わららず、今後も条例に沿って除排雪業務を進めます。

質問 大物議員 除雪出動基準を5センチ引き下げた場合に想定される費用について伺いたい。

答弁 齊藤町長 現在の基準の2倍以上の費用を要します。

質問 大物議員 ごみステーションなど公共性が高い場所でも置き雪の悩みが寄せられるが、地域任せでよいのか。

答弁 齊藤町長 可能な限り置き雪をしないよう努めています。が、重機による除雪作業には限界があり、地域のご協力も不可

欠と考えます。

質問 大物議員 条例第4条にある自らの雪とはどこまでを指すものなのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 降り積もった雪や屋根からの落雪のほか、道路除雪による置き雪も含まれます。

公共施設における生理用品の設置について

質問 大物議員 公共施設の生理用品配備の考え方を伺いたい。

答弁 齊藤町長 災害備蓄用で配備していますが、常時公共施設等に配備の予定はありません。

質問 大物議員 教育施設での設置、配付状況を伺いたい。

答弁 前坂教育長 社会教育施設には設置、配付をしていませんが、小中学校では保健室に設置し、希望する児童生徒へ配付しています。

質問 大物議員 どうして保健の先生に言わないともらえないのか。

答弁 前坂教育長 体の悩みを相談する場面も設けたく、生理の貧困の可視化、家庭状況も含め実態を十分に把握するため保健室に設置しています。

質問 大物議員 トイレに設置はできないのか。

答弁 前坂教育長 衛生上の問題等もあり、今現在保健室に設置するのが最善と考えます。

質問 大物議員 知られたくない人もいるので、選択肢を用意するべきではないか。

答弁 前坂教育長 丁寧な対応が必要で、児童生徒の心身の影響を考慮し日常的に相談しやすい体制をつくるのが大事だと考えます。

土屋美奈子 議員
(よいち未来)

余市町立学校における働き方改革について

質問 土屋議員 余市町立学校における働き方改革「アクション・プラン」のこれまでの取組に対する評価について伺いたい。

答弁 前坂教育長 第2次アクション・プランの初年度となる令和3年度から新たな取組として教職員のストレスチェックの実施、ICTの活用促進に伴う業務の効率化に取り組んでいるところであり、月45時間以上の超過勤務の延べ人数の割合が減少傾向を示すなど一定の成果が

得られていると認識しています。

質問 土屋議員 新型コロナウイルス感染症拡大による業務への影響とこれに伴うアクション・プランへの影響について伺いたい。

答弁 前坂教育長 教室内の換気や消毒作業などの感染症対策や児童生徒の健康観察等新たな業務が増えており、アクション・プランへの影響は少なからずあるものと考えています。

質問 土屋議員 国の動向について見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 小学校高学年における教科担任制の推進や支援スタッフの配置支援の拡充、学校向け調査の精選などこれまでに以上に推進していくものと認識しています。

質問 土屋議員 社会全体が急速な転換期となる中、計画期間中も新たな取組の追加や見直しに随時対応するべきではないか。

答弁 前坂教育長 国や北海道の動向、学校における取組状況などを見極めながら弾力的に対応したいと考えます。

質問 土屋議員 北海道のアクション・プランはコロナ禍を受けて大きく変わったが、北海道と連携している本町は見直しの必要はないのか。

答弁 前坂教育長 北海道の動きも承知しており、まずは検証

一 般 質 問

作業をしっかりと状況を見極め対応したいと考えますが、コロナ禍の影響で1人1台端末が前倒しで一挙に整備されたこともあり、ICTを十分に活用して子どもたちの学力向上、教職員負担軽減にしっかりと対応したいと考えます。

は情報の共有化や業務の効率化を図るとあるが、どのようにICTの活用をしていくのか。
答弁 前坂教育長 今試行的に学習アプリを入れていますが、このソフトで授業準備や校務の効率化も担保できており、ICTは積極的に活用したいと考えます。

彫谷 吉英 議員 (明政会)

ふるさと納税について

質問 彫谷議員 ふるさと納税の今年度の11月までの収入額は幾らか伺いたい。

答弁 齊藤町長 今年度11月末時点の収納ベースで3億5962万1000円となっています。

質問 彫谷議員 それぞれの中間業者の売上は幾らか伺いたい。

答弁 齊藤町長 それぞれのポータルサイトの寄附受入額については、11月末時点の各ポータルサイト等での申込みベースで、ふるさとチョイスが1億4902万3000円、楽天ふるさと

納税が1億6296万1000円、ANAのふるさと納税が1780万1000円、ふるなびが3457万円、ふるさとぶらすが26万3000円、さとふるが7431万6000円、JALふるさと納税が749万4000円、ポケットマルシェふるさと納税が150万7000円、ふるさと納税NFTが666万円の合計4億5459万5000円となっています。

質問 彫谷議員 手数料は幾らになっているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 ふるさと納税の事業費については、11月支払い分までで1億2434万1709円となっています。

質問 彫谷議員 納められた寄附金額の中から返礼品の仕入れ原価は幾らになるのか伺いたい。
答弁 齊藤町長 寄附金額に対する返礼品の調達額については、11月末時点でおよそ1億800

万円程度となっています。
質問 彫谷議員 これだけふるさと納税が大きくなると、寄附の使い道について職員だけで決めてしまうのではなく、町民から公募し、町民と一緒に決めていこうということが大事だと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 使い道は予算委員会では決めていますので、町民の皆さんと決めていると考えます。

寺田 進 議員 (公明党)

行政のデジタル化 推進について

質問 寺田議員 行政のデジタル化推進に関わり、次の事項を伺いたい。

①自治体DX推進状況について。
②マイナンバーカード交付の推進状況について。

答弁 齊藤町長 ①余市町自治体DXに関する全体方針を策定し、文書の電子化、電子決裁導入を進めており、さらに、推進の必要性や意義の理解促進を図る職員研修を実施しています。

質問 彫谷議員 寄附の使い道について、ある市では条例にしたところもあり、寄附の使い道を事業として明示できていることは大変よい方法と考えるが、余市町から他町村にふるさと納税は幾ら振り込まれているのか。
答弁 齊藤町長 他町村へのふるさと納税寄附金額は税額控除額において1305万円ですが、75%戻ってくる仕組みになっています。

②令和4年11月末現在、本町全体で41.4%、65歳以上で38.9%となっています。

質問 寺田議員 ①電子自治体の目的は町民サービス向上と同時に行政運営の効率化、構造化も大事であるが、職員の意識をどう改革するのか。

答弁 齊藤町長 ①デジタル化の目的は利便性の向上で、職員の手間を省くことで総体として行政の質が上がるのも狙いですが、導入は目的ではなく手段で、本質的に何をやらなければいけないかの認識が足りないという現場を見て思っており、DX推進に何が今必要なのか段階を見極め、適切な人材を配置したいと考えます。

質問 寺田議員 ①町ホームページに問合せの項目があるが、

どのくらい書き込みはあるのか。
答弁 齊藤町長 ①私も見られますし、担当で日々返答しており、1年間のデータは担当課にあります。

質問 寺田議員 ②マイナンバーカード普及率をどのように捉え、今後どのように進めるのか。
答弁 齊藤町長 ②満足いく数字ではなく、普及啓発も進めております。

質問 寺田議員 ②理解できない人や不安な方をサポートするスタッフを職員やボランティアなどで設けるなど、人的要素で推進することについて。
答弁 齊藤町長 ②デジタル化推進は行政に必要であり、引き続き推進しますが、手法は内部で話し合っています。

質問 寺田議員 ②セキュリティに不安がありマイナンバーカードを作らない人もいるが、セキュリティマネジメントをどう構築されるのか。
答弁 齊藤町長 ②セキュリティ確保は第一優先であり、行政内部情報はインターネットから遮断された回線で扱うので、セキュリティは構築されていると考えます。

一 般 質 問

藤野 博二 議員 (明政会)

余中学校体育大会の参加要件緩和に伴う

本町のスポーツ団体の大会参加について

質問 藤野議員 本年3月に公益財団法人日本中学校体育連盟(以下、「全国中体連」)は、2023年度から全国中学校体育大会(以下、「全中」)について学校単位だけでなく、民間のクラブ等が全中に参加できるよう参加要件を緩和する方針を決め、各都道府県の中学校体育連盟へ通知し、都道府県や市町村によっては、2023年の秋の新人戦から部活以外のチームが参加する可能性があるとの報道があるが、現状では全中の開催基準が整っているのに、北海道中体連や後志中体連の開催基準が整っていないため、部活以外で練習している生徒の中体連大会への参加の機会が先送りになる可能性があるが、現段階での教育委員会の方を伺いたい。

答弁 前坂教育長 北海道中体連会議では、全国中体連の決定を受け、地域スポーツ団体が全競技において全道大会に参加で

きることを決定し、後志中体連事務局としても同様に参加を認める予定とのことであり、教育委員会としては中体連事務局等の動向を注視し、学校やスポーツ団体との連携を図り、生徒のスポーツ環境を守るため適切に対応したいと考えます。

質問 藤野議員 そもそも公立中学校の働き方改革、部活動の地域移行に端を発した問題だが、一番影響を受けるのは中学生自身であり、学校部活動から地域スポーツ団体への移行は果たしてうまくスムーズにできるのか。

答弁 前坂教育長 令和5年度から段階的に移行ということで、学校、社会スポーツ団体とも精力的に協議しておりますが、課題も多く、そういった中で大会参加の緩和が正式決定したことから、同時進行でこれらの課題に対応しなければならず、まだ不透明なところもありますが、しっかりと対応したいと考えます。

質問 藤野議員 休日部活動の地域移行は、ふだん指導する先生に土日は指導してもらえないだとか、学校が子どもを地域に出すことを嫌がるといったことが起こり得るが、先生と地域指導者で生徒の取り合いをすることがないよう進めてもらいたい。

答弁 前坂教育長 民間指導者

と教職員の連携は課題として捉えており、生徒のスポーツに対する意欲と希望がかなうように、できるだけ混乱なく地域移行できるように対応したいと考えます。

伊藤 正明 議員 (明政会)

町政執行に関わる基本方針について

質問 伊藤議員 首長としてルーチン行政から脱却し、次々と新しい施策を打ち出していかれたことに対し、深く敬意を表するところであり、町政執行の基本方針で、次世代の可能性を引き出す、資源を最大限活用し、町を持続、発展させる、激動する社会に対応するの3つを指針として挙げているが、この指針作成に至ったバックグラウンドと町長の見解、思いの丈を伺いたい。

答弁 齊藤町長 総合計画策定時に開催した余市町まちづくり協議会における提言等を基にして設定しており、安心して住み続けられるまちづくりのため、未来への投資が必要であること、

資源を最大限活用し町を持続、発展させるには、行政施策において総花的な施策の実行では町政を維持することは困難なため、将来に残すべきものは何か、潜在価値を伸ばしていくかを考え、効果的かつ効果的な行政施策の選択と集中が必要であること、変化する社会環境の中で臨機応変に対応し、緻密な未来予測を行い、想定される課題への備えと変化に対応した柔軟なまちづくりをする必要から、それぞれ

指針として設定をしています。

町財政の健全化と新たな施策の実行について

質問 伊藤議員 経常収支比率が令和3年度決算で87%となり、一時期100%を超えていた中で低減状況にあることは喜ばしいことであり、政策予算の確保は新たな政策を打ち出していくに当たっての重要要素と考え、その中で能動的に対応できる施策として、町長はふるさと納税を選択し、就任以来12倍の金額を達成したと聞いているが、来年度も新しい仕掛け、プロモーション活動を考えているのか伺いたい。

答弁 齊藤町長 サプライサイ

ドの供給量の制限によって一気に伸ばすことの足かせになっていますが、プロモーションについては、寄附額を増やすという要素だけでなく、余市産品のブランド化につながるものであるので、今後も力を入れて進めます。

質問 伊藤議員 ユーチューブによる議会の配信が必要と考えるが、予算措置という部分で町のバックアップについて伺いたい。

答弁 齊藤町長 まちづくり協議会の提言に議会のユーチューブ配信はやるべきと書かれており、町民も待ち望んでおり、予算が上がってくれば、それは認証します。

※このほかに、地域おこし協力隊について質問しています。

茅根 英昭 議員 (明政会)

地域公共交通政策について

質問 茅根議員 地域公共交通政策について、次の事項を伺いたい。

一 般 質 問

①JR余市小樽間の今後について。

②地域公共交通について。

答弁 齊藤町長 ①バス方式を踏まえ、新たな交通ネットワークの構築に向け北海道、沿線市町村、バス事業者を交えた検討を進めており、町内でも地域公共交通活性化協議会や都市再生協議会で議論していきます。

②地域公共交通活性化協議会で持続可能な公共交通を協議します。

質問 茅根議員 ①JR余市小樽間にまだ希望を持つ町民が多いが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ①並行在来線経営分離の判はもともとしており、私が判断したバス転換同意は、利便性と迅速性が確保されるのであればということです。

質問 茅根議員 ①余市小樽間のバス転換について、未来のビジョンをどう考えているのか。

答弁 齊藤町長 ①非常に多くの方が余市小樽間を活用しているため、町民の利便性を損なわないよう迅速性と利便性の確保に注力しており、現在の駅舎は交通結節点としてきちんと整備するよう北海道と話しています。

質問 茅根議員 ②デマンドバスの活用など地域公共交通の礎となるビジョンについて伺いたい。

答弁 齊藤町長 デマンドは一つの選択肢として可能性がありますが、全体の将来像を見据えたグラウンドデザインの設計が必要であり、よりコンパクトな交通手段が求められると考えます。

町立学校の施設整備と統合について

統合について

質問 茅根議員 町立学校の施設整備と統合について、次の事項を伺いたい。

①老朽化している学校施設に対する今後の考え方について。

②町立学校の統合に対する考え方について。

答弁 前坂教育長 ①全体的に老朽化が進み、今後計画的な施設の維持管理が必要なことから、適正な改修、改築を検討し、求められる機能確保を目的に余市町学校施設長寿命化計画を策定しており、今後計画に基づき適正な維持管理に努めます。

②将来を見据えた学校施設の適正な規模と配置の方向性を示すことを目的に余市町立学校適正配置等検討委員会において基本計画策定に関わり審議中です。

中谷 栄利 議員 (日本共産党議員団)

学校給食費の無償化について

CS2

質問 中谷議員 学校給食費の無償化について、次の事項を伺いたい。

①子育て支援、余市町食育推進計画の上でも学校給食費の無償化に取り組むことについて。

②小学校及び中学校の学校給食費の年額と過去からの推移について。

③物価高騰による学校給食費への影響について。

答弁 前坂教育長 ①学校給食法の規定により食材等に関わる費用は保護者にご負担をいただいておりますが、経済的な理由により負担が困難な世帯は生活保護制度や就学援助制度の中で支援をしているところであり、教育的な観点からは公平性は確保されているものと認識をしております。

②小学校の平均は約5万4000円、中学校の平均は約5万8000円であり、直近で値上げ

を行った小学校は令和4年度に1校、令和元年度に2校、中学校は平成28年度に1校あります。

③物価高騰下でも栄養バランスや量を保った学校給食を実施するため、地方創生臨時交付金を活用し、2度にわたり保護者負担の軽減を図りました。

質問 中谷議員 ①給食費の無償化には約5000万円と考えるが、就学援助の分と併せて見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 ①現在就学援助制度を活用して、町費負担として約1500万円の負担を行っており、さらに、無償化した場合、概算ではありますが、新たな支出として約4000万円となります。

質問 中谷議員 ①食育推進計画の推進、具現化での学校給食費の無償化の取組について、町長の見解も伺いたい。

答弁 齊藤町長 ①子育て支援策の拡充について、できる限り多く振っていくことにより将来の世代をきちんと育てていきたいと考えており、給食費に関しても以前から財源との兼ね合いでいろいろ精査はしています。

質問 中谷議員 ①段階的な取組でも学校給食費の無償化に踏み込んでいくような考えはないのか。

答弁 齊藤町長 ①財源がないとできないので、やみくもに予算はつけられませんが、いつ実現するかは別として、念頭にあります。

議会を傍聴してみませんか

《次の定例会は3月上旬に開催の予定です》

◆本会議については、役場3階の議会事務局で、傍聴人受付簿に住所・氏名を記入するだけで傍聴できます。傍聴定員は38人となっており、会議当日の先着順となっています。

新型コロナウイルス感染防止のため、手指の消毒やマスクの使用をお願いしています。

※詳しい日程などは、議会ホームページをご覧ください。議会事務局 (Tel 21-2132) へお問い合わせください。

行政報告

□区会の分割について

余市町の区会制度は、町民の生活文化の向上と地域住民の融和・親睦を図る目的で、昭和30年4月、余市町総合建設協議会規則の施行により、逐次区会が設立され、昭和35年12月には40区会の組織による余市町区会連合会が発足し、現在では48区会をもって余市町区会連合会が組織、運営されています。

黒川町八幡区会は、昭和58年に黒川町第7区会から分割され、平成9年には世帯数の増加から都市計画決定道路登川線の北部を共栄区会として分割しましたが、世帯数の増加が著しく、令和4年1月時点で567世帯となり、今後さらに増加が予想される地域です。

区会の分割は、区会の総意に基づくことが第一義であり、黒川町八幡区会では、平成31年の区会総会で分割に係る準備委員会の設置が承認され、分割についての審議を経て、令和4年の区会総会において黒川町18丁目を分割することについて承認されたことから、令和4年度余市町区会連合会定期総会において、住民の意向、単位区会としての運営、地域的な条件等、各般にわたり協議・検討がなされた結果、分割について全会一致で賛意を得ましたので、令和5年1月1日付をもって黒川町八幡区会を「黒川町18丁目区会」と「黒川町八幡区会」に分割し、区会の総数を49区会といたします。

議会日誌

11月

- 18日 北後志町村議会議長会臨時総会
- 19日 第2回議会報告会
- 24日 水道事業会計決算特別委員会
- 28~30日 各会計決算特別委員会

12月

- 12日 議会運営委員会
- 13~15日 第4回定例会
- 14日 議会運営委員会
- 15日 国民健康保険税条例審査特別委員会
- 22日 民生環境常任委員会
- 23日 議会運営委員会
- 27日 北後志消防・衛生施設組合議会
- 27日 民生環境常任委員会

1月

- 20日 議会運営委員会
- 23日 民生環境常任委員会
- 24日 総務文教常任委員会
- 26日 国民健康保険税条例審査特別委員会
- 31日 産業建設常任委員会

2月

- 7日 国民健康保険税条例審査特別委員会
- 10日 北しりべし廃棄物処理広域連合議会
- 13日 民生環境常任委員会
- 13日 後志町村議会議長会定期総会
- 15日 総務文教常任委員会

編集後記

ロシアによるウクライナ侵攻開始から1年が過ぎましたが、いまだ収束は見えません。歴史をひもとくと、国同士が武力を用いて問題解決を図ろうとも、最終的な解決にはなっていない。かつて第一次世界大戦劈頭、時のイギリス政府は参戦理由を「全ての戦争を終わらせるための戦争」とするも「全ての戦争」はなくなり、第二次世界大戦への遠因となり、最後に人類は自らを滅亡させかねないほどの力を持つに至りました。

第二次世界大戦以降、私たちの住む世界は紆余曲折を経ながらも、国同士の問題は「話し合いで解決」することを共通認識とし、問題を抱えつつも、その枠組みを積み重ねていきました。幾ら価値観が多様化した現代といえども、武力によって問題解決を図ろうとする行為は人の道に反するものというのが、歴史の教訓です。

気候変動の影響が顕発する21世紀前半の世界。私たちが真に向き合わなくてはならないものは、人と人との戦争ではなく、「壊れつつある地球と自然環境をどう改善していくか」ではないでしょうか。昨年、インドのモディ首相がロシアのプーチン大統領に語ったように、まさに「戦争どころではない」と思います。

総務文教常任委員会
委員 大物 翔

よいち町議会だより

No.206 (年4回発行)
令和5年3月1日発行

発行 余市町議会
編集 総務文教常任委員会

T046-8546 北海道余市郡余市町朝日町26番地
TEL 0135-21-2132
FAX 0135-21-2144
E-mail giji.gki@town.yoichi.hokkaido.jp